

「桜の樹」 ニュースレター vol 17

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

2022.12

「忘れられないおくりもの」を読んで A. S.

スーザン・バーレイ作

賢くていつもみんなに頼りにされているアナグマが冬が来る前に「長いトンネルのむこうに行くよ、さようなら」という手紙を残して亡くなってしまいます。アナグマは体はなくなっても心は残るという事を知っていました。自分がいなくなった後のみんなを気づかって、いつか長いトンネルの向こうに行ってしまうとあまり悲しまないようにと言っていました。とはいえ、大切な仲間を失った森の動物たちは、悲しみにくれて、どうしていいかわかりません。でもアナグマとの思い出を話し合っているうちに春になり、その頃には、彼が宝物のような生きる知恵や工夫を残してくれたことに気づいていきます。

この絵本は30年余り前に子供に読んでいたものですが、生や死、仲間とのつながりが優しい絵と文でかかれています。

アナグマの人生が仲間たちへのおくりものだったのかなと思います。気づいてみると自分自身も毎年、年末には、母のレシピで黒豆を煮ています。そんな時、「それまだ固いんじゃないの？」と言う母の声が後ろから聞こえてきそうです。

がんを経験した今では、色々大切なことに気づかせてくれる大人の絵本だと改めて感じています。



チャウチャウ犬の笑顔 屈ちゃん

私の母は認知症を患い、数年前から介護施設で静かに暮らしていました。

しかし、コロナで面会制限され1年以上会えなくなると、会話や外出が減った影響もあり、母は声を発する事が出来なくなりました。家族とも会えず、ほぼ寝たきりの生活。私の事を覚えているのか心配になりました。

しばらくしてやっと面会出来る日がきました。看護師さんに付き添われて車椅子に乗った母に、「元気だった？」と声をかけました。

最初は私の顔を確認する様な眼で見つめていた母でしたが、きっと私が娘である事に気づいたのでしょう。元気だった頃の明るい母の笑顔を見せてくれたのです。それは、私にとって当たり前前の母の笑顔でした。声が出にくい母にとっての、唯一の感情表現なのでしょう。これまでの不安は消え、私も一緒に笑う事ができました。

身体の具合は大丈夫なのか、食事はできているのか。問いかけましたが、返事はありませんでした。しばらくして、そろそろ帰宅することを母に伝えると、母の顔は少し沈んだように見えました。私は、またしばらく母と会うことはないのだと思いながら、「また来るね」という言葉を残して帰りました。

私に会えた喜びを、最高の笑顔で返してくれた母でした。

それは私にとって、樋野先生のおっしゃるチャウチャウ犬の笑顔だったと思えるのです。

母との思い出と共に、素直に笑える、感じるままの笑顔で寄り添えるそんな自分になりたいと思っています。

ワイルドな4匹ニャンズたちは・・・

May

NPOさんから「母親失格」のダメ出しをいただき、仔猫ちゃん4匹はNPOさんのシェルターへお引越し。なかなか懐かず「家野良化」していたので、心を痛めていたのも正直なところ。いなくなってホッとした気持ち。でも使っていた部屋を片付けながら、ちょっとさみしくもあり……。数日間、何をやるにもやる気がでない。あれ？これって空の巣症候群でしょうか？自分の子どもでも感じたことなかったのに……。



今年も巣鴨カフェ恒例のクリスマスの飾りをつくりました。ひとつひとつのピースはカフェを支えて下さっている個性豊かな皆さんをイメージしています。並べると大きなツリーに!!
心よりの感謝を込めて・・・*



寄席文字講座に行ってきました。 ミニオン

地域の文化祭で1日体験を募集していました。筆ペンで遊び感覚で書いたことがあるぐらいです。文字に興味があって応募してみました。ご案内状が送られてきました。当選しました。汚れてもよい服でご参加下さい。墨がついたら落ちないよ。さー大変。ポロ服を着て参加。

○寄席文字の定義

- *用紙いっぱいを書く。お客様が沢山来ますように。
- *スキマをなくす。お客様がスキマなく。
- *少し右上がりを書く。上り調子にあがる。
- *文字を書くのではなく 絵を描く気持ちで。
- *筆はねかせて親指と人差し指のつけねからはなさず書く。

実際に描いてみるとかなり難しい。先生に言わせると「今日はじめてだから書けるはずはありません。怖がらずドンドン書きましょう」

写真は「何時も笑顔で」と思い先生に書いてもらいました。



編集後記 さくら(かえる)

今年最後のニュースレターになりました。コロナ禍カフェに参加できる方もできない方も、それぞれが話したい時に近況などを語っていただける場としてはじめてのニュースレター、今年はカフェをあらたに始めた方や他のカフェ参加者の方にも多くご寄稿いただきました。感謝申し上げます。現在がん哲学外来のホームページを開くと、「2023年新春からがん哲学外来の活動は大きく広がる予定」と書かれています。私はがん哲学外来に出会うまでに20数年かかってしまいましたが、ひとりでも多くの方にカフェを知っていただきたいと思い活動してきました。来年からの変化を楽しみつつ、巣鴨カフェのスタッフ一同、持てる力を尽くしていきたいと思えます。来年もどうぞよろしく願いいたします。**今年最後のカフェは、12月10日(土)です**

